

第37期第4回長崎県社会教育委員の会議 議事録

開 催 日 時	令和5年9月6日（水） 13：10～16：00
開 催 場 所	県庁7階 教育委員会室
出 席 者	<p>【長崎県社会教育委員】 本田委員長、郷野副委員長、棕本委員、一瀬委員、藤田委員 岩本委員、梅木澤委員、峰委員、平山委員、野間委員、林委員 久保田委員、有川委員 他1名（※非公表） 計14名</p> <p>【事務局】 （生涯学習課） 加藤課長、森総括課長補佐、馬場参事、谷口参事、大町課長補佐、 山下課長補佐、永田係長、深堀指導主事、柴田指導主事、小島指導 主事、徳永主事 計 11 名</p> <p>【関係各課】 義務教育課、人権・同和対策課、こども未来課 計 3 名</p>
(1) 協 議	<p>多世代・多分野が関わる社会教育の推進について （事務局）</p> <p>本日の協議の柱は「多世代・多分野が関わる社会教育の推進」。第37期の審議テーマである「人口減少時代における長崎らしい社会教育のあり方」、サブテーマ「多世代・多分野が参画した持続可能な地域・人づくり」を第36期の会議から引継ぎ、前回まで、「地域学校協働活動の推進」、「地域総がかりでの家庭教育支援の推進」について協議を深めてきた。第37期の予定としては、これまでの協議と、本日の協議で出していただいた御意見、御助言をもとに、意見書の作成を進めていくことになる。</p> <p>議事進行を本田委員長にお願いします。</p> <p>（委員長） 本日も御協議よろしく申し上げます。</p>

(事務局)

今回の協議のテーマは「多世代・多分野が関わる社会教育の推進」について。前回は「地域総がかりでの家庭教育支援の推進」ということで御意見をいただいた。人を知り、活動を知ることが地域を知ること。だれもが当事者意識をもって主体的に取り組めるような活動の推進の必要性や、地域住民による学校を核とした地域づくり、地元企業と連携した地域と学校の協働により多世代の大人がつながるという御意見もあった。

また、ウェルビーイングの視点から、保護者や子どもをはじめ、家庭、地域の人や団体が本当に必要としていることを理解し、互いを尊重し合えるようなつながりを構築してほしいという御意見もあった。だれもが笑顔でいられるように委員の皆様は日頃から多世代・多分野が関わる活動を仕組んでおられる。多世代、多分野が関わる活動を仕組むことで、多くのつながりが生まれ、「地域をよりよくしたい、守っていききたい」といった思いを共有でき、地域のために活躍する人材育成や、ふるさとへの愛着や誇りを育むことにつながる。

これらは第33期答申の目指す地域像、活力ある地域像として設定された「住みたい、住み続けたい、訪れてみたい、もどってきたい」という目指す地域像として取り組まれてきたものです。御協議の程よろしく願います。

(委員)

前回の会議でもあったウェルビーイングというものが、日本の教育基本方針の中で謳われてきている。ウェルビーイングというものについて調べてみると、持続的な幸せとある。子どもが持続的に幸せを得るための教育を考えていく、先の幸せではなく、今が幸せでなければならない。そしてその幸せである状態を持続していくということが、教育振興基本計画の根幹に入ってきているのではないかと思う。地域や家庭を巻き込んで、その幸せである状態を作っていく。幸せというと「ハピネス」という言葉があるが、単一的な幸せのこと。「ウェルビーイング」はずっと幸せな状態でいましょうということ。そのために大人の考え方を変える必要がある。私立高校においては、子どもたちが求めているものを学べるシステムを作るという取組が始まっている。今興味があることに集中して、探究して幸せを感じてほしい。第三期の教育振興基本計画で出てきたヤングケアラーなど、問題を抱

える子どもを、どのようにしてウェルビーイングの状態を作ってあげるのが、今期の社会教育の課題となるかと思う。「つながる」だけでは、足りない。持続、継続する方向で。小・中・高がつながっているけれども、次の段階へと広がっていくというところで学校教育と社会教育が両輪で進めていかなければならないという重要なところだと思う。

(委員)

学校の新しい姿というものについて考えていて、もう学校が何でもする時代ではないと。そう言われていながらも、コミュニティ・スクールの集まりなどでは、「学校に言うとかよ」となんでも学校に持っていく。その結果、学校が何でもかんでもしなければならなくなり、さらに目指すものが増え、どこかで学校に本当に必要なものは何かを考えて、変化していく必要があるのではと思う。社会教育に携わる者として、学校に過大な重荷を背負わせていないか、見直すべき。

(委員)

保護者の立場として、先生は「教える」ということに特化していただけるように、複雑化している子どもにまつわる問題を解決してくれる専門家へつなぐ窓口が学校にあれば理想的。一旦増えすぎた情報をそぎ落として、本当に大事なものを残し、そぎ落としてから、新しいものをプラスしていくというようなやり方が必要。そぎ落とす作業は難しいが、その考え方が必要だと思う。ウェルビーイングの考え方は、これからの中軸となっていくと思う。大人の縮図が子どもである。大人の本気を子どもに見せ、まずは大人が体現していくべき。それを公民館などで、子どもたちが学ぶことができたら良いのでは。

(委員)

他の委員へ質問。多世代・多分野をつなぐ地域づくりをされていると思うが、そこに関わっている様々な年代職種の方々を上手くつなぐ「接着剤」となっているものは何か教えてほしい。

(委員)

大学生や20代前半で、地域貢献したい（高尚なものではなく、地域で何かしたい、表現したいなど）と思っている人が増えてきている

が、学校ではそれを表現するのが難しい。地域の中で何かしたい、表現しようとした際に、地域には応援してくれる大人が多く、否定するのではなく背中を押してくれる。自由に発言しても良い土壌もあるということが、「接着剤」となっているのではと思う。女性も子どもも多く、安心して発言ができる雰囲気がある。多世代・多分野の人が集ったときに応援してくれる土壌があるということが「接着剤」になっていると思う。

(委員)

これまで取り組まれてきた企画に対する参加率（実施する方）は、どのような推移か。

(委員)

イベントをきっかけに定着する人が増えてきている。以前は、若い人と地域の人という構図であったが、変化してきている。しかしながら、参加率としては現状維持をしている状況であり、参加率を増やすことのできるキーマンを連れてくることは課題である。

最近、私も「地域の人」という認識をされることが多くなり、「お金にならないのによくやっているね」などの声を掛けられることが増えた。最近、「さかみち留学」という地域留学のような企画を、全国向けに参加の募集をかけたところ、お金をかけて県外から参加する人もいた。今後のためにも、何かパッケージ化して事業として実行できればと思う。

(委員)

先程学校の先生の負担についての話があったが、現在「せんばいかん」、するのが当たり前だと思われていることが、本当に当たり前なのかという視点を持つことが必要ではないか。先生たちにとって、するのが当然と思われている業務を、外部の人間からすれば、なぜ先生がしているのかということが多々ある。

多世代・多分野というところでは、私が旗振り役で活動しているところで、だんだん活動の輪が広がってきている。感じているのが、私が中心になって旗振り役になるという人はなかなかいないが、「手伝いするよ」という人は多い。その「手伝いをするよ」という方に対して、なんだったらできる？と、得意なこと、好きなことをしてもら

ということが大事で、それによって輪がひろがっていく。

(委員)

テーマにある内容を実現するためには、地域学校協働本部の整備が有効なのではないかと思う。コミュニティ・スクール導入率と協働本部の整備率にかなり乖離があると聞いたが、持続可能ということを考えれば、協働本部はあった方が良いのではと考える。一般的には、協働本部の整備は有効ではないと考えられているのか。

(委員長)

コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の担当部署が異なる点についても、永遠の課題のようになっていますが、いかがか。

(生涯学習課長)

コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を同じ部署が管轄すべきではないかという声が挙がっていることは認識している。地域学校協働本部（ネットワーク）については、地域によってどのように整備していくかが異なっている。育成協がそのまま協働本部になりうるところもあれば、新たに整備をしなければならないところもある。どちらにしても、地域をつなぐ地域学校協働活動推進員のような人材が必要であると考えます。それによって、それぞれがうまく機能し円滑に進んでいく。先ほど好きなことをしてもらおうという話をされたようなことを切り口にしながら、これまでに行政がつくってきた地域にある協議会や委員会といった仕組みを整理していくことも私たちの課題であると捉えている。

(委員長)

佐賀県などでは、総合計画の中に教育振興基本計画がある。予算がつながっているため。長崎県においても、そのような認識を持つべきなのではないか。

(委員)

小学校の校長時代は、会議が多いうえに、会議に参加するメンバーはほとんど変わらないことが多かった。一つにまとめられないのかと思っていた。働き方改革のためにも、実現してほしい。

そぎ落とすということも大切なだけけれど、多世代がまみえていくときには、かえって面倒なことをやるということは地域が崩壊しないための方策になるのかとも考える。今年地域で夏祭りを開催したが、地域とのつながりを感じられるものだった。地域の企業が商品を出してくれたり、差し入れをしてくれたりしたおかげで、子どもも楽しそうに大人も盛り上がっていた。このような祭りなどの行事をすると大変なこともあるが、そぎ落とさずに残していくべきものもある、そういうジレンマを感じたところである。

(委員)

そぎ落とすというのは、不要なものをなくしていくことで、「エッジ」を明確にするという意味。その方の個性を引き上げることで個人が輝き、それによって人がつながる。

今度キッズタウンというイベントを開催する。子どもだけで企画して、大人はほとんど口を出さない。今回は学校で起業をしている中学校からも出店する。一般の大人はキッズタウンの観光をするということで入場できる。キャリア教育の一環としても、実際に税金を払ったり、市長の選出をしたりとごっこ遊びではなく、実社会に近いものになっている。子どもから大人まで多世代の交流ができる。

(委員)

国から補助を受けてキッズタウンのような活動を行ったことがある。本物を子どもに体験させるにはとても良いと思う。

(委員)

キッズタウンは、学校では学べないことを学ぶのに良い機会。

学校では子どもたちのために持続可能なものを残していきたいと考えている。最近では、交流ペーロンを行うために、地域の方々の協力も得ながら活動しているが、それが「つなぐ」ということになっているのではないか。大変ではあるが、これを今後も残していきたい。

保護者は地域の次の担い手であるため、保護者も育てていく必要がある。保護者をはじめ、地域の若い人には学校活動の中で、スキルを活かしてほしい。子どもを核にすることで、人が集まる。関わってくれる人が多くなる。

本物を見せることは地域の人にも子どもにも大事なと感じてい

る。本物だったらつながっていく。本物だったら納得する。そういうことができるということが、社会教育のよさ。ジャンルにとらわれずに縦にも横にも柔軟にできるのが社会教育。学校教育にもとらわれない、地域のため、人のため、子どものためなら、何をやってもいいという特性を最大限に発揮してつなぐ。

実際に対面することだけが「つながる」のではなく、物を通してであったり、紙だったり、オンラインであったり、県外であったり、より広く「つながる」ということの多様性をもっと感じていければ良いと思う。狭い領域ではなく広い領域で見ることで違う世界が広がる。

(委員)

社会教育委員として、地域学校協働活動について考えていく必要がある。地域学校協働活動の協働は、目標や目的を同じにして取り組むということで、地域学校協働活動は、地域の中で一つの目標と一緒に取り組んでいきたいと思いますというものであると考える。

小佐々の取組などを聞けば、地域も学校も互恵がすごく大きい。そうであれば、私たちも積極的に推進していかなければならない。

私たちは社会教育委員の立場から、地域学校協働活動を進めていくには、県下に根付かせていくには、どのようなことをやっていけば良いのかということ、それぞれの立場で意見を出し合っていくことが重要である。本委員会は、学校関係者がおり、地域の代表がおり、まちづくりの専門家がいて、子育ての専門家がいる。まさに多世代・多分野が集まる地域学校協働本部。

ずいぶん共通理解が図れた。地域学校協働活動をどう地域に根付かせていくか。そのためには年度計画でどういったことをしていけばよいか、必要なこととしては、まずは認知度を上げる。方策を考える。次に、各地域の実態を調査する。できていることは進めていく、できていないところには、そこに手を加えていく。そのために必要な人を集めていく。そういった手立てをはっきりさせながら進めていければよいと思う。

(委員長)

実態を知りながら、ということで、難しいところではありますが、これから意見書をまとめるという作業に入ります。それぞれのお立場から年内で一旦、意見を提示していただきたい。事務局の方

<p>(2) 生涯学習参事 挨拶</p>	<p>から再度、私たちが出した第2回、第3回、第4回の意見のまとめを提示していただき、それをもとに再度考えていただきたい。</p> <p>(事務局)</p> <p>長崎県社会教育研究大会について、テーマと発表内容の乖離や発表者の負担軽減等の理由から、社会教育委員の研修会を第1分科会に設定するなどして、1日日程となった。参加を検討してほしい。</p> <p>多世代・他分野が関わる社会教育の推進について、多世代・他分野が関わることで、学校の先生にも、地域住民にも良い影響があることを認識した。キーワードとして「そぎ落とす」「面倒なことも大切にする」という一見相反するようにも見えるこの二つの言葉がありましたが、その本質は同じなのだという気がしております。</p> <p>本日は「多世代・多分野が関わる社会教育の推進」というテーマでお話をいただいた。また、これまで第2回、第3回とお話していただいた。社会教育の力というものをこれからは私たち自身がしっかりと整理して、意見書の方に集約して、皆様方にお諮りをしていく。</p>
------------------------------	--